

前回の検討会における議論

<各市からの意見>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け市の財政状況は厳しくなっており、JR西日本提案時から社会情勢が変化していることから、慎重に協議していく必要がある。
- ・重要な交通インフラである城端線・氷見線を次世代に引き継ぐことが不可欠である。
- ・LRT化に向けた今後の議論にあたっては初期投資やランニングコストを検討した上で、LRTだけでなく幅広い交通体系を検討していく必要がある。
- ・今後の需要予測調査の結果や各市における新駅設置等の検討状況を踏まえたうえで、技術的あるいは物理的な条件や収支面に関し、この検討会でさらに議論を深めていく必要がある。

<JR西日本からの意見>

- ・コロナ禍で厳しい経営状況であるものの、まちづくり等を含めた公共交通がどうあるべきかについての検討が重要であることから、引き続き本検討を進めていきたい。
- ・運行間隔を短くし高頻度の運行を行えば需要の維持に寄与する需要予測調査の結果は、未来に期待が感じられる結果と考える。
- ・今後の調査では沿線開発や公共施設の集約など各市におけるまちづくりにより生まれる需要といった観点での検討の深度化が必要である。
- ・高頻度運行の実現や新駅整備は、事業費およびLRT化後の運営収支に影響を及ぼすことから、各市のまちづくりを踏まえて城端線・氷見線にどのような機能を求めるのか慎重に考えていく必要がある。
- ・費用対効果の検証の際には、直接的収入だけではなく、地域経済の活性化や健康寿命の延伸、環境負荷の低減など社会的便益と呼ばれるような効果も含め、まちづくりにおける公共交通として総合的に考えていく必要がある。